

(公社) 日本地すべり学会関東支部 平成 28 年度第 2 回現地検討会 開催報告 —平成 27 年 9 月関東・東北豪雨災害 白石川地区—

1. 実施概要

関東支部では、「実物を現場でじっくり見て・歩いて・さわってみる」ことをテーマに年 2 回の現地検討会を実施しています。今回は、栃木県環境森林部の協力のもと、昨年の「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨災害」で発生した大規模な土砂崩壊地において現地検討会を行いました。以下にその報告を記載します。

- (1) 開催日：平成 28 年 10 月 27 日（木）
- (2) 開催場所：栃木県日光市岩崎地内
- (3) 主催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部
- (4) 協力：栃木県環境森林部
- (5) 参加人数：21 名（うち学生 9 名）

2. 現地検討会の内容

白石川地区では平成 27 年 9 月 9 日～10 日の豪雨を起因として大規模な土砂崩壊が発生しました。崩壊地の規模は約 20 万 m³におよび、長距離流動した崩壊土砂は白石川の流路沿いに約 1.8km も流下しました。当地域の地質は中生代の付加体（チャート・粘板岩）からなりますが、実際の斜面では基盤の付加体堆積物を関東ロームなどの火山噴出物が覆っており、今回崩壊した移動土塊は主に約 3.2 万年前に噴出した鹿沼軽石層の二次堆積物であったと推定されます。（落合ほか，2016）

検討会ではまず、栃木県環境森林部担当者から災害対応時の経緯や現在実施している対策事業について紹介頂きました。続いて、ベテランから学生まで総勢 21 名の参加者全員で崩壊地の踏査を行い、崩壊発生メカニズムについて議論しました。崩壊した鹿沼軽石層の二次堆積物がなぜこれほど厚く堆積していたのか…？その露頭に連続して発達するレンズ状の風化した粘土層の形成プロセスは…？といった話題を議論しつつ、夕刻まで踏査を行い帰途に就きました。

3. おわりに

関東支部では、今後も現場に密着した現地検討会や学生・若手技術者の育成をテーマとした活動を実施していく予定です。

最後に、本現地検討会の開催にあたり、御協力頂いた栃木県環境森林部の関係者各位には大変お世話になりました。ここに記して、厚く御礼申し上げます。

参考文献

落合博貴・櫻井正明・若井明彦・蔡飛・林一成（2016）：
平成 27 年 9 月関東・東北豪雨による栃木県内の土砂災害調査報告，日本地すべり学会誌，Vol. 53, No. 3，
pp. 31-34.



写真-1 概要説明状況



写真-2 視察状況



写真-3 現地見学終了時の集合写真

(関東支部幹事会 齊藤雅志・滝口 潤・林 一成)